



総合資料館だより

2010. 4. 1 No. 163



御 蔭 祭

—神のお迎えの神事—

御蔭祭は、現在は下鴨神社で毎年5月12日に行われる恒例のお祭です。毎年、祭神の新霊が御蔭山で生まれ、神社の本殿まで迎えに行くという神事です。神の新たな御霊が生まれるというので「みあれ（御生）」とも呼ばれています。実は、5月15日の葵祭は、この新たに神社に来られた御霊に対して、宮中からお供え物を持っていく行事のことなのです。上賀茂神社でも御阿礼祭という、同じような意味の神事があります。

御蔭祭は戦国時代くらいに中断しましたが、江戸時代の元禄年間に葵祭の行列や神社での行事とともに復興します。その後、18世紀の後半には御蔭山の土砂崩れによって新霊が生まれる神社が崩壊し、復興までに70年ほどかかりました。今回紹介している『宝永花洛細見図』は宝永年間の出版と見られますので、元禄時代に復興してから間もない頃の御蔭祭の姿を描いた貴重な資料です。

目次	御蔭祭 — 神のお迎えの神事—	1
	文献課の窓から「総合資料館の『平家物語』—旧分類の図書 又—」	2
	歴史資料課の窓から「残された文書・失われた文書」	4
	最近の収集資料から（平成21年12月～22年2月）	5
	新規公開資料のご紹介（行政文書）平成22年度の行事予定について	7
	「国際アーカイブズの日」について 友の会事務局から 日誌 利用案内	8

総合資料館の『平家物語』 一旧分類の図書 又一

総合資料館の案内パンフレットに、「貴重書」について、「中でも『平家物語』の数多くの写本や古活字版のコレクションは全国的に知られており」という記述があり、当館の平家物語は全国的に有名ということになっています。どのぐらいの量が集まれば「コレクション」というのかはわかりませんが、現在、資料館では『平家物語』の写本と古活字本の合計11点を貴重書としています。

ただし、これらは資料館が集めたわけではありません。資料館蔵書の淵源が京都府立図書館蔵書にあることは本連載ですでに触れていますが、『平家物語』コレクションも例外ではありません。しかし、このコレクションが府立図書館でどのように形成されたのか、詳細は明確ではありません。ただ、これまた、よく名前が出る京都府立図書館第4代館長湯浅吉郎の意思が強く働いていることは間違いのないと思われま

す。湯浅館長は、平家琵琶波多野流の伝承者である藤村性禅の弟子で、自らも琵琶を演奏しました。というより、琵琶が大好きだったようで、その号「半月」というのも、琵琶の異称を「半月」というところからとったと言っています（『茶わん』128 1941.9）。府立図書館長となる直前の明治37年1月の『京都日出新聞』には、「奥さんが、キリスト教者としての朝の祈禱をなさいと言うのも聞かずに琵琶を弾くほど『琵琶の前には何も眼中にない』」というような記事が載っているほどです。

この湯浅館長の平曲語りのCDが、現京都府立図書館にあります。「弓流し」の場面、わずか3分少々で、調弦が十分でないという指摘もあるようですが、湯浅館長の貴重な肉声です（『邦楽全曲集7』日本コロムビア 1995.5）。

なお、湯浅館長と並んで、藤村性禅の弟子の一人として津田青寛という名前が『日本音楽大事典』（平凡社）に載っていますが、津田氏のご息女道子氏の蔵書は近年総合資料館に寄贈をいただいております、これも何かの縁かと思ひます。そ



▲貴 499



▲貴 503



▲貴 507

れについては、『資料館紀要』35号に目録を載せています。さて、その平曲好きの湯浅館長の時代に府立図書館に入ったのが、現在総合資料館が持っている『平家物語』です。貴重書11点を含め、写本が8点、版本が同じく8点あります。受け入れ年が確定できない1点を除き、すべて湯浅館長の在職中に受け入れられています。湯浅自身、「最後の平家琵琶」という文章の中で次のように書いています。「私が京都図書館の館長であった時、平家物語の異本の貴重なるものを蒐集して置いた。即ち、葉子十行本全十二冊、紙粘葉綴、一面十行、各巻『津山文庫』の印がある。次には八坂本十一冊巻十二欠く。そして屋代本巻二、これは珍本で巻首に『不忍文庫』の印がある、大判楮紙で古写本中最も古いものである。」（『茶わん』129 1941.10）。

ここで、「葉子十行本」とあるのは、貴重書番号503で、見返しには金箔が使用されています。「八坂本十一冊」は、貴重書番号501にあたります。また、「屋代本」（貴重書番号500）とは、江戸時代の学者である屋代弘賢が持っていたもので、「不忍文庫」という蔵書印が押されています。資料館には、巻2の1冊しか所蔵していませんが、なぜ1冊だけ府立図書館に入ったのか、残念ながら今のところそれを知る手がかりはありません。ほかに、例えば「第一句 てん上のやみうち」のように、本文を120句に分けた形の目次を持っている「百二十句本」（貴重書番号499）と呼ばれている本もあります。これらは写本ですが、版本では、古活字本と呼ばれる（古活字本については、本日より前号参照）江戸時代の初期に木で作った活字を組んで印刷したものが3点、製版本が5点あります。

ところで、本稿執筆時の調査で、これら館蔵の『平家物語』の一つ（請求記号 和-838-45）に「半月」という印があることに気がつきました。18×11mmの小判型の印です（写真右）。これは、湯浅館長の印であろうと思います。湯浅の蔵書印は、『蔵書印提要』（日本書誌学大系44 青裳堂書店 1985.3）に「湯浅氏図書館」とありま



すが、印影は掲載されていません。上記のものは「湯浅氏図書記」とは異なりますが、ここに紹介します。さらに、奈良の天理大学附属天理図書館にある、湯浅が筆写して歌人佐々木信綱に贈った『波多野流大秘事』という本にも「半月」印がありましたが、これはまた違った印でした（写真左）。

16点あると紹介しました資料館の平家物語のうち、「百二十句本」「屋代本」など5点については、貴重書データベースとしてデジタル画像を作っていますので、資料館のホームページを通じてご覧いただくことができます（<http://www3.library.pref.kyoto.jp/>）。他のものも、いづれ画像を公開したいものです。

貴重書以外の旧分類図書の中には、他にも『平家物語』に関係したものとして、『平語小曲』『平家物語小秘事』とか、『波多野流平家語り本』という仮題がついた本もあります。また、『平家物語』の異本の一種である『源平盛衰記』

も2点あります。貴重書の詳しい書誌は『貴重書目録』に譲りますが、概略は下表をご覧ください。

余談ながら、この表からは「旧分類」という蔵書群についてもいくつかのことがわかります。その一つは、『平家物語』が分類上838（和文集）と922（中古史）という二つに分かれていること、もう一つは、従来、旧分類の図書記号に当たる数字はその分類の中での受け入れ順の数字が当てられているといわれてきたのですが、実際にはそうではないらしいことなどです。些細なことではありますが、戦前の府立図書館の受け入れ、目録などを考えるヒントにはなりそうです。

なお、『平家物語』に限らず、古典籍類の大部分が湯浅館長時代（明治37年3月～大正5年5月）の受け入れであり、湯浅の目利きが100年後の今も生きていけると言えるでしょう。総合資料館も、未来の人からそのように評価される施設でありたいものです。

*湯浅館長については、本日より117号～119号に記事があります。

（文献課 西村 隆）

旧分類『平家物語』関係図書

Dはデジタル画像あり

タイトル（外題優先）	請求記号	貴重書番号	版写別	受入日	登録番号	備考
1 平家物語	和-922-15		版	明治30年代?		絵入り 印「大御学都可佐文庫」「縁山慧照院常住物」
2 正保版平家物語	和-922-16		版	明治38年9月14日		正保3 印2
3 平家物語	特-838-15	貴507	古活字	明治41年5月20日	13252	刊記「河原町仁衛門」
4 平家	特-838-16	貴499	写	明治41年6月10日	13327	百二十句本
5 平家物語	特-838-23	貴502	写	明治42年6月10日	14120	印「白川家蔵書」
6 平家物語	特-838-24	貴503	写	明治43年5月14日	15025	綴葉装 見返し金箔 印「津山文庫」
7 新版絵入平家物語	和-838-44		版	明治43年5月14日	15027	延宝5 洛陽二条通書肆堂開板
8 平家物語	和-838-45		版	明治43年8月30日	15728	横本6冊 絵入り 元禄12 平安城書林板行 印「半月」
9 平家物語	特-838-14		版	明治43年9月16日	15828	万治2 大和田九左衛門板
10 平家物語	特-838-13	貴501	写	明治43年12月22日	16203	綴葉装
11 平家物語	特-838-27	貴509	古活字	明治44年8月5日	16961	印「岡氏図書」「和歌山総田屋平右衛門」
12 平家物語	特-922-13	貴506	写	大正3年4月10日		印「米家蔵本」「熊本書舗川口屋又次郎」
13 平家物語	特-922-10	貴508	古活字	大正3年4月24日		
14 平家	特-922-12	貴500	写	大正3年5月28日		屋代本 印「不忍文庫」「小諸蔵書」
15 平家物語	特-922-14	貴504	写	大正4年9月10日	22411	奥書「寛永三年三月廿二日」
16 平家物語	特-922-15	貴505	写	大正4年11月10日	22441	
17 平家物語小秘事	特-838-29		写	明治44年8月5日	16963	寛政11 藤丸氏写 印「華陽」ほか
18 平語小曲	特-838-28		版	明治44年8月5日	16964	寛政12 京都書林勝村治右衛門ほか3
19 [波多野流平家語り本]	特-838-31		写	大正1年8月20日		28冊 墨書「藤林」
20 源平盛衰記	特-922-4		版	明治42年1月14日		絵入り 延宝8東洞院通六角下町山口忠右衛門富次開板
21 源平盛衰記補刻	和-841-8		版	明治43年4月7日	15003	

付 新分類『平家物語』関係図書

1 新版絵入平家物語	特-913.434-H51		版	昭和41年3月12日		宝永7
2 和注絵入源平盛衰記	特-913.434-G34		版	昭和41年3月12日		元禄14 東洞院六角下町山口氏開版

残された文書・失われた文書

「京都府行政文書」アーカイブズ*の歩み

「京都府行政文書」の閲覧制度は、昭和47(1972)年にスタートしました。この時、当館で所蔵していた行政文書の冊数は約11,000冊で、年間の利用者は、一般の調査研究目的の利用と府職員の業務上の利用を合わせて、約160人でした。現在は、所蔵冊数が約76,000冊、年間利用者数は約1,200人、利用冊数は約7,000冊となっています。

当館での閲覧に先立ち、昭和38(1963)年から同43(1968)年の間に、明治元(1868)年から昭和20(1945)年までの行政文書約11,000冊が、京都府庁の書庫から総合資料館へ移されました。しかし、この11,000冊という数字は、単純に年平均に換算すると年間130冊となり、京都府と言う行政組織体の規模からしても、余りにも少なすぎます。ちなみに、明治10年前後には年間約2,000冊の文書が作成されていたことが、内務省への報告でわかっています。

では、どうしてこれだけしか残らなかったのでしょうか。行政文書は、保存年数が規定されており、その年数が経過すれば廃棄されるということもありますが、それ以外に、その時々での不注意から失われたものもあります。また、災害や建物の取り壊し、保存場所の移動、そして戦争という状況の中で失われたものもあり、この場合は、一挙に大量の文書が消失してしまうという事態が生じます。

今回は、紙面の都合で、一つの例として第二次世界大戦での状況をご紹介しますことにします。

○終戦前後の文書の疎開・消失・復帰

この時期の文書の消失には、二つの流れがありました。一つは、各課から文書課へ引き継がれた文書で、本庁書庫にまとめて保存されていた文書の流れです。この文書は、空襲の激化に伴い、焼失から守るために昭和20(1945)年3月、嵯峨大覚寺境内華道道場内に移されますが、移動にあたり、不必要とされた文書が廃棄され、また、移動時の壊滅による文書の消失も生じました。嵯峨大覚寺へ移された文書は、終戦直後の9月に本庁内書庫に戻されますが、この時、木造の書庫は類焼を防ぐ目的で取り壊されており、

残されたコンクリートの書庫一つでは入りきれなかった簿冊、明治期約1,900冊、大正期約400冊、昭和期約300冊が廃棄されました。

もう一つの流れは、各主管課や京都府地方事務所、警察署等で保管されていた文書、約12,000冊で、廃棄リストの備考欄に「京都聯隊区司令部の指示に基づくもの」等の記載があり、意図的に焼却廃棄されたものであることがわかります。対象となったのは、軍事や警察、消防関係の簿冊が中心でした。明治初年から約80年近く保存されて来た文書が、このような経過の中で失われたのは、惜しまれます。

○知的資源の宝庫

一方、様々な経過の中で現在に伝えられた文書もあります。一般の閲覧に提供するため、最初に当館へ移管された約11,000冊の文書すべてが、他の文書と共に平成14(2002)年、国の重要文化財に指定されました。その後も、戦後の新しい行政組織の中で作成された文書が、作成後25年経過した時点で当館へ移管されてきます。また、保存年数が経過した時点で、当館が選別した文書が、担当課から引き渡されます。こうして、現在、約76,000冊の文書を所蔵しています。かつて、アメリカでは、国立公文書館に保存されている記録を“Nation's Memory”と自慢していました。この視点からすれば、「京都府行政文書」は、“府民の記憶”です。現在までに、簿冊数で延べ140,000冊の文書が利用されました。利用は、当館での閲覧が中心で、近現代史の研究資料として、地域を知る資料として、法的手続き等現在の生活に係る資料として、府や国、市町村の業務上の資料として利用されます。また、展覧会での展示、出版物への掲載等への利用もあります。

何か調べてみたいテーマをもって、是非一度ご来館ください。新たな「知」の世界が広がるかもしれません。

*参考：科研報告書(2008.3.刊)『京都府行政文書を中心とした近代行政文書についての史料学的研究』
(歴史資料課 渡辺 佳子)

*公文書館やそこで保存される資料は「アーカイブズ」と称されています。行政を行うために作成される公文書は、作成された当初の目的が終わった後、公文書館等へ移され、アーカイブズとして保存活用されます。



最近の収集資料から（平成21年12月～平成22年2月）



◆図書資料

<京都>

禅の寺 臨濟宗・黄檗宗十五本山と開山禪師
カラー新版 阿部理恵著 禅文化研究所 2009
262p

御遷幸供奉次第貴名録 安政2序 1冊

幕末京都史跡大事典 石田孝喜著 新人物往来
社 2009 396p 寄贈

戦乱の都・京都 日本の歴史はここで動いた
柘植久慶著 PHP研究所 2009 263p

民衆とともに歩んだ山本宣治（やません） 宇
治山宣会編 かもがわ出版 2009 47p 寄贈

まちづくりコーディネーター リムボン・まちづ
くり研究会編著 学芸出版社 2009 223p

わくわく理学 夢ふくらむ 京大理学部 京都
大学大学院理学研究科・京都大学理学部広報誌
編集委員会編 京都大学大学院理学研究科
2009 95p 寄贈

京やさい料理帖 農家のお母さんおすすめ JA
京都監修 北星社 2009 110p 寄贈

京都岩倉実相院 室田康雄写真 光村推古書院
2008 43p 寄贈

京都万華鏡 大正・昭和の京都不いしょばなし
柴田敦姫著 ウインかもがわ かもがわ出版
（発売） 2008

<人文>

世界大百科事典 [34] 百科便覧 改訂新版
平凡社 2009 837p

近代日本公共図書館年表 1867～2005 奥泉和
久編著 日本図書館協会 2009 10,467p

書誌年鑑 2009 中西裕編 日外アソシエーツ
2009 7,481p

冷泉家時雨亭叢書 別巻1 翻刻明月記紙背文
書 冷泉家時雨亭文庫編 朝日新聞社 2010
350p

日本書誌学大系 98 蘆庵文庫目録と資料 蘆
庵文庫研究会編 青裳堂書店 2009 802p 図
版 16p 寄贈

慶應義塾図書館和漢貴重書目録 慶應義塾図書
館編刊 2009 193p 寄贈

公立図書館・文書館・博物館 アレクサンドラ・
ヤロウ著 京都大学図書館情報学研究会 2008
68p 寄贈

アーキビスト制度関係資料集 全国歴史資料保
存利用機関連絡協議会専門職問題委員会編刊
2009 235p 寄贈

幻の写本・大澤本源氏物語 宇治市源氏物語
ミュージアム [編] 宇治市源氏物語ミュージア
ム 2009 63p 寄贈

国立国会図書館年報 平成20年度 国立国会図
書館編刊 2009 16,269p 寄贈

中世古典籍学序説 武井和人著 和泉書院
2009 10,583p

資料保存の調査と計画 安江明夫監修 日本図
書館協会 2009 141p

日本仏教の教理形成 法会における唱導と論議
の研究 蓑輪顕量著 大蔵出版 2009 318p

日本金石文の編年史料化と史料学的分析方法に
関する研究 高橋慎一郎[研究代表]刊 2008
171p

日本古代の宗教と伝承 松倉文比古編 勉誠出
版 2009 390p （龍谷叢書 18）

中世の紛争と地域社会 蔵持重裕編 岩田書院
2009 396p

日本中世気象災害史年表稿 藤木久志編 高志書院 2007 427p

権力と仏教の中世史 文化と政治的状况 上横手雅敬著 法藏館 2009 5,418,18p

近衛新体制の思想と政治 自由主義克服の時代 源川真希著 有志舎 2009 6,216,3p 寄贈

昭和期美術展覧会の研究 戦前篇 国立文化財機構東京文化財研究所編刊 2009 559p寄贈

豊臣期大坂図屏風 大阪城・エッゲンベルグ城友好城郭締結記念特別展 大阪城天守閣編 大阪観光コンベンション協会 2009 143p 寄贈

浮世絵版画秀鑑 久保恒彦父子コレクション 和泉市久保惣記念美術館編刊 2009 227,12p 寄贈

日本仏教洋楽資料年表 飛鳥寛栗編 法藏館 2008 11,207p

植木行宣芸能文化史論集 1,2 植木行宣著 岩田書院 2009 2冊
内容：1 中世芸能の形成過程 2 舞台芸能の伝流

<官庁>

中小企業施策総覧 中小企業庁施策の解説書 平成21年度 中小企業庁編 中小企業総合研究機構 2009 3,501p

日本統計年鑑 第59回(2010) 総務省統計研究所編 総務省統計局 2009 39,942p

学校基本調査報告書 初等中等教育機関 専修学校・各種学校編 平成21年度 生涯学習政策局調査企画課編 日経印刷 2009 30,984p

学校基本調査報告書 高等教育機関編 平成21年度 生涯学習政策局調査企画課編 日経印刷 2009 27,697p

省エネルギー便覧 日本のエネルギー有効利用を考える資料集 2009年度版 省エネルギーセンター編刊 2009 8,367p

企業活動基本調査報告書 平成20年第1~3巻 経済産業省経済産業政策局調査統計部編 経済産業統計協会 2009 3冊

京都府出資法人自己評価報告書 平成21年9月 京都府[編]刊 2009 117p

災害時における生活必需品及び応急復旧資材の調達先一覧表 京都府[編]刊 2009 89p

二年間のあゆみ 平成17・18年度 京都府難病相談・支援センター[編]刊 2007 256p

京都府與謝郡宮津町現勢一覽 昭和13年(12年度現在) 宮津町役場[編] 宮津町刊 1938 1枚

舞鶴の環境 環境白書資料集 平成21年度版 舞鶴市市民環境部環境対策室生活環境課[編]刊 2009 214p 寄贈

亀岡市教育委員会点検・評価報告書 平成21年度(平成20年度対象) 亀岡市教育委員会[編]刊 2009 43p 寄贈

市政のあらまし 平成21年度 京都市会事務局[編]刊 [2009] 234p 寄贈

新規公開資料のご紹介(行政文書)

・雪害対策関係資料 29点

昭和34年度から昭和58年度までの防災担当部署作成のものを中心とした、雪害対応の文書で構成。

・農業構造改善事業関係ほか資料 85点

農業改善事業の対象とされた地域の改善事業の計画書・図面などを含む文書で構成。

※有期限行政文書として収集整理した資料を、テーマごとに順次公開の予定です。

(ご利用にあたっては、当館ホームページか閲覧室備え付けの目録をご覧下さい。資料の損傷状況、個人情報保護の観点から閲覧に提供できない資料もあります。あらかじめご了承下さい。)

平成22年度の行事予定について

当館では、所蔵資料を幅広くご利用・ご活用いただくために、講座や展覧会を開催しています。昨年度は講座の再編整理、体験講座の実施を行いました。今年度も事業の一層の充実を目指します。また、展覧会についても、新しい試みをしてまいりますので、ご期待ください。

このうち、今年度の講座・展覧会の開催予定は次のとおりです。

◆講座

平成14年度からスタートした「総合資料館府民講座」は、展覧会関連の講演を中心に開催します。前年度ご好評をいただきました「寺子屋講座」（体験講座）も、展覧会の開催時期に合わせて開催します。府民講座、寺子屋講座を合わせて年間8回程度を予定しています。

また、一般府民の方を対象とした古文書に関する講座として、従来の「古文書解読講座」に替わり、昨年度より「歴史資料カレッジ」と「古文書入門教室」を開催しています。

「歴史資料カレッジ」は、館蔵資料を使用して歴史等の講義を行うもので、前期（9月頃）・後期（3月頃）それぞれ3日間ずつの開催を予定しています。「古文書入門教室」は、初学者を対象に簡単な資料の解読を行います。11月下旬から12月上旬にかけて3日間の開催を予定しています。

その他、地域資料リーダー育成事業として、

職員が出張講座もいたしますので、ご希望の方はお問い合わせください。

なお、古文書の内容や解読についてのご相談「古文書相談」についても、引き続き実施しますので、事前にお申し込みください。

（古文書相談につきましては、最終ページをご確認ください。）

◆展覧会

7月から8月にかけて、今年度最初の展覧会を予定しています。内容は未定ですが、ご来館いただいた皆様から、「資料館らしくてよかった。」と言っていただけるような内容にしたいと考えています。

また、総合資料館が所蔵する古典籍について、府立大学文学部教員と当館職員がわかりやく解説する「古典籍へようこそ」を毎月第2日曜日と第4日曜日に京都新聞に連載していますが、これに関連する資料をご紹介します展覧会を10月から11月に開催します。

2月から3月にかけては「収蔵品展」を開催し、当館が所蔵する多様な資料をご紹介します。

これら各事業については、詳細が決定次第、「総合資料館だより」、「府民だより」等のほか、当館のホームページ、メールマガジン、館内の掲示で順次ご案内します。

皆様のご来館・ご参加をお待ちしています。

* * * * *

平成21年度 総合資料館の行事予定

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
講 座	総合資料館府民講座	← 年8回程度開催（予定） →											
	古文書入門教室	↔											
	歴史資料カレッジ	↔											
展 覧 会		↔											

「国際アーカイブズの日」について

国際公文書館会議 (International Council on Archives, ICA) は、文書や記録の保存や利用について、世界中の公文書館の相互の連携を強め、活動の発展を目指し、ユネスコの支援を受けて、昭和23 (1948) 年6月9日に発足しました。

2008年がちょうどその発足から60周年になることを記念して、ICAは、6月9日を「国際アーカイブズの日」と決めました。

文書や記録を残すこと、それは国や地方公共団体だけでなく、企業や団体にとっても非常に大切なことです。この日をきっかけに、それぞれが作成、取得したいろいろな文書や記録を、保存し、その利用を図ることの大切さをもう一度考えましょう。

「アーカイブズ」とは…

個人または組織がその活動を通じて作成、接受、蓄積した文書、映像、音声などによる記録や電子記録などのうち、組織運営や学術研究の必要性、文化その他の多様な価値ゆえに永続的に保存される資料をいいます。(国立公文書館の資料より)

友の会事務局から

平成22年度の友の会は、3月5日現在190人の方にお申し込みいただいています。

友の会に入会いただきますと、資料館だよりをお送りし、また、現地講座やバス旅行などにご参加いただけます。

随時申込みを受け付けています。多数の方のご入会をお待ちしております。

問合せ先：友の会事務局

(当館庶務課内 TEL 075-723-4831)

*主な活動 (予定)

- ・見学会 (年1回秋頃、要参加費)
- ・現地講座 (年1回春頃、要参加費)
- ・「総合資料館だより」の配布 (年4回)
- ・資料館主催展示会の会員向け展示解説
- ・京都文化博物館、池大雅美術館の入場料割引
- ・総合資料館府民講座の開催 (資料館と共催)

古文書相談のご案内

○古文書の内容や解説についての相談

郵送による事前申込。申込方法の詳細については、次へお問い合わせください。

問合せ先：当館歴史資料課 TEL 075-723-4834

日誌 (平成21年12月～22年2月)

- 12.16 (水) オランダ公文書館職員来館
- 2.27 (土)～ 収蔵品展 (3.28まで)
- 2.27 (土)～ 「第15回京都ミュージアムロードスタンプラリー」に参加 (3.22まで)

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始 (12月28日～1月4日)

〔4月～6月の休館日〕

4月14日 (水)、29日 (木・祝)

5月3日 (月・祝)～5日 (水・祝)、12日 (水)

6月9日 (水)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④、⑧・北山駅下車
京都バス④⑤、④⑥・前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

*総合資料館メールマガジンでは、当館所蔵資料に関する様々な情報を発信しているほか、
展示会・府民講座のご案内等をいち早く皆様にお届けしています。ぜひ御登録ください。
(登録はこちらから)

<http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/maga.html>

発行 京都府立総合資料館

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-5

京都府立総合資料館友の会 (振替 01030-2-11991) TEL. 075-723-4831 FAX. 075-791-9466

○本誌に対するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています。